

はじめに

日々もたらされる膨大な情報、携帯やパソコン機器をとおした他者との交流など、近年のインターネット、ゲームの普及は子どもたちを取り巻く環境を複雑化させています。こうした現代社会において子どもたちが豊かで充実した人生を送るためにも、必要で良質な情報を選択し、活用する能力が求められています。読書は豊かな言語力や知識を得るほか、物語をとおして感性を磨き、想像力を高め、他者とのコミュニケーション能力を培います。このように読書は「生きる力」を育み、「人生の質」を高める手段と言えます。

本市においては幼稚園や小・中学校での保護者やボランティアによる読み聞かせ、各学校による子どもの読書活動を促進する取組、公共図書館では利便性を高める図書サービスの展開、読書を喚起する事業開催など様々な取組が行われています。

しかし平成17年度の4市町合併後、離島地域など広域となった現在、すべての子どもたちの読書環境が等しいとは言い難い状況です。

うるま市では本市の将来を担う子どもの豊かな人格形成のため、この度「うるま市子どもの読書活動推進計画」を策定いたしました。市民の読書活動への気運を高めるとともに、すべての子どもが、あらゆる時に、あらゆるところで読書が行える環境を整えるため、この推進計画を指標とし、子どもの読書活動を推進していきます。

結びに、本計画の策定にあたりご尽力いただきました策定委員の皆様をはじめ、貴重なご意見、ご指導をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

平成25年3月

うるま市教育委員会
教育長 謝敷 久武



表紙・本文イラスト 座間味良吉

◆読書推進キャラクター「おふくろう」について

知恵と学問の象徴と言われるふくろうに、カンガルーのような袋をもたせました。母親の別名「おふくろ」と読書の出発点である「読み聞かせ」を、袋（胎盤）の中でわが子を育むイメージに重ね「おふくろう」という名前にしました。